

令和5年度 第2回 学校運営協議会議事録

校名	府立むらの高等支援学校
校長名	森本 裕

開催日時	令和 5年 10月 6日 (金)
開催場所	共用棟2F 会議室
出席者(委員)	(会長) 荒木 寛巳 (副会長) 上國料 洋子 (委員) 石神 彰人 富田 雅信 浦塚 久美子 ※順不同、敬称略
出席者(学校) ※回覧	(校長) 森本 裕 【事務局】(教頭) 野村 佳津 (事務長) 山地 千里 藤川 泰生 速水 彬裕 重松 亮 橋本 義久 阿南 幸佑 岩里 哲朗 吉田 聖名子 上田 航 遠藤 幸子 新澤 隼人
傍聴者	なし
協議資料	①協議会次第 ②前期授業参観アンケート集計結果【本校】 ③前期授業参観アンケート集計結果【共生】 ④学校教育自己診断(報告) ⑤学校教育自己診断票【本校用】⑥学校教育自己診断票【共生用】 ⑦自己診断実施要項 ⑧自己診断実施上の留意点
備考	後日、議事録を学校ホームページで公開

議題等(次第順)
1) 授業見学 2) 資料確認……………教頭より 3) 校長挨拶 4) 報告 ・授業参観アンケート集計結果について ・令和5年度 学校教育自己診断の概要と診断票について ・令和5年度 学校経営計画の進捗状況について 5) 協議 6) 校長挨拶 7) 事務局より
協議内容(質問・意見の概要)
【委員からの質疑応答】 <相談体制について> ・自己診断の「相談できる先生がいる」という項目について、相談窓口の設置が企業でも重要視されてきている。しかし、相談窓口を設置しているが、相談後の流れが決まっておらず課題を抱える会社もある。むらのは相談後どのような流れで対応しているか知りたい。 →(生徒支援部) 相談窓口について、相談室はあるがそこを利用する生徒はあまりおらず、担任や学年の教員に直接相談するが多い。その相談内容によっては生徒支援部や校内コーディネーターを中心に福祉人材(臨床心理士など)、ソーシャルスクールワーカーと連携しながら対応している。基本的には校内で対応しており、必要であれば外部機関を活用しながら対応している。 <実習受け入れ企業について> ・職場実習の受け入れ先企業の開拓について、過去2年間受け入れがなかった企業への再開拓と新規開拓が合わせて22社と聞いて大変驚いた。そのうち新規の会社はいくつあるか知りたい。 →(進路指導部) 新規は10社くらいだと思う。1年間で延べ120社程度と関わる中で、30～35社は開拓を意気込んでいる。今年度は進路指導部内でも1期生、2期生の頃にお世話になっていた企業へのアプローチに力を入れている。また、障がい者雇用率が上がることもあり、企業の方からアプローチをいただくことも増えている。 <共生について> ・共生の授業参観アンケート回収が0件だったことについて、来校された方が参観された後に教員と話す機会などはあったのか。あったのであれば、アンケート項目に沿って懇談を行ったのか。

→（教務部）参観の後に本校担当教員との顔合わせを行い、希望する保護者に対して懇談会を行なった。しかし、その際アンケートの項目に関することは話題にしていない。

・一般的に共生の生徒は本校にも設置校にも安心できる居場所がないように感じる。就ポツとしても共生の生徒への対応に難しさを感じる。定着支援をしてもその内容を本校と設置校のどちらの先生にも言わないでほしいという場合が多い。また、設置校の教員に当該生徒の情報を求めた際に、特に何も問題なかったという返答があったため、本校の方に情報を求めても定着支援は設置校が担うことになっていると返答されてしまうためすぐ対応が難しい。現状は本人と会社と就ポツの関係にとどまっているため、それに加えて学校も一緒に連携していけたらと思う。

<自己診断の項目について>

・生徒用の自己診断の項目で「自分の個別的教育支援計画、指導計画の目標を知っている」という項目は、生徒が自分の目標を本当に理解をしていないとなかなか答えにくい項目のように思える。こういった項目についてどのように生徒の理解を促しているのか知りたい。

→（教務部）三者懇談の際に、本人や保護者と相談しながら目標を設定するようにしている。教科の目標に関しては授業の中で目標を伝えている教科もある。

→（校長）生徒は自分たちの目標は知っているが、そのこととの質問項目の結びつきが弱く、昨年度のこの項目に関する肯定率が下がったのではないかと考察している。質問項目と懇談時に伝えられている目標との結びつきをどのように強くしていくかが課題。

<受験者数の減少について>

・定員割れについて気になっている。定員割れがなくなっていくことを望んでいるが、仮に今後定員割れが続いたとしたら、入学してくる生徒の障がいの程度の幅が広くなり、より個別の指導が必要な生徒が入ってくるのではないかと。

・受験者数増加のために一番に中学校の進路指導の教員にむらのがどんなことをやっている学校なのか知ってほしいと思う。受験者数減少の要因として手帳がないと受験資格がないということも大きな壁となっていると考える。枚方支援学校は教室が足りなくなるほどに生徒が増えている。その要因の一つに手帳がなくても入学ができることがあげられると考えている。支援を必要としているのに手帳が取れずにむらのに来られないという子どももいるのではないかと。

→（校長）高等支援学校の5校連絡会の校長会では、高等支援学校全体の受験者数が減っていることの危機感を共有している。高等学校を受験する生徒が増えているのではないかと、私学の無償化によってそちらを受験する生徒も増えるのではないかとといったことが話題にあがっている。各校とも現状は似ており、受験してくる生徒の実態が変わってきている。共生推進教室や自立支援コースなど生徒にとって進路選択の幅が増えるのはいいことであるが、大阪府全体として高校教育や支援教育をどのような構成にしていくか考えなければならない。

<中途退学者の就ポツの利用状況について>

・入学したものの学校が合わず、途中離脱する生徒もいる。途中離脱した生徒が就ポツに訪ねることはあるか。

・結論として途中離脱した後に就ポツを訪れてくる生徒はいない。しかし、離脱する前に休学している段階で保護者や生徒が来ることが多い。

<教員の時間外労働時間について>

・去年は時間外労働時間が80時間以上の教員がのべ10人で今年は0人、60時間の方の数も減ってきていると説明があったが、教員の意識が変わってきているのか。

→（首席）今年の4月から働き方改革が徹底されるようになった。電話の応答時間をはじめ、色々なところで工夫をしている。どうすれば今までのクオリティを大きく落とさず、改革を進めていけるかが課題。

<自動応答電話・文書のデータ化について>

・PTAの立場から自動応答電話について何か意見が出ているか。

・自動応答電話についての意見は聞かないが、実習期間中等に溜まったプリントを早く配付してほしいという意見はある。

→（教務部）一部の学校では文書をデータで送信しているところがある。本校でもそれができないかICT推進委員会で検討している。

<市町村での外部研修について>

・リーディングスタッフが市教委から依頼があって外部に研修講師として赴くとあったが、どのような話をするのか。

→（校長）主に学校説明を行っている。先日の枚方市の説明会では、説明後の個別の質疑応答の時間でたくさんの質問をいただいたと聞いている。外部への情報発信に関して言えば、市町村での説明会に加え、オープンスクールも中学３年生だけでなく中学１年生から来られるようにするなどの取り組みをしている。

<オープンスクールについて>

・オープンスクールはどのような形式で行っているか。

→（首席）むらのの授業内容の説明のあと、希望に別れて授業の体験をしてもらっている。

<天の川カフェについて>

・原材料の高騰にともなって、天の川カフェで売っているクッキーは値段の改定や個数やサイズの変更はあるのか。

→去年 50 円から 100 円に改定して、量も倍にしている。原材料の高騰はあるものの今のままの価格設定でやっていける。

・値段の設定の仕方によって利益が変わることや、原材料の高騰やフードロスの影響によって価格を改定していることなど生徒も理解できているのか。

→原材料があがっているため、１袋あたりの量が減ってきているなど簡単な説明はしている。

<Smile&Music プロジェクトについて>

→（生徒支援部）ミュージック・シェアリングの市との連携において、３年間で区切りをつけて取り組んできて、今後の話をする段階に入ってきた。市や法人と今後について話をすることができたらと思っている。

・今後続けるにあたってみんなで良いものにしていくために、また話し合いをすることができたらと考えている。

<学校間交流について>

・他校との交流はどんな取り組みを行っているか。

→（校長）むらのの生徒の実態がさまざまになったことで枚方支援の職員に支援のノウハウを聞くなどの交流ができたらと思っている。また、近隣の東海大附属仰星の生徒会との交流などもできないかと個人的には思っている。

以上